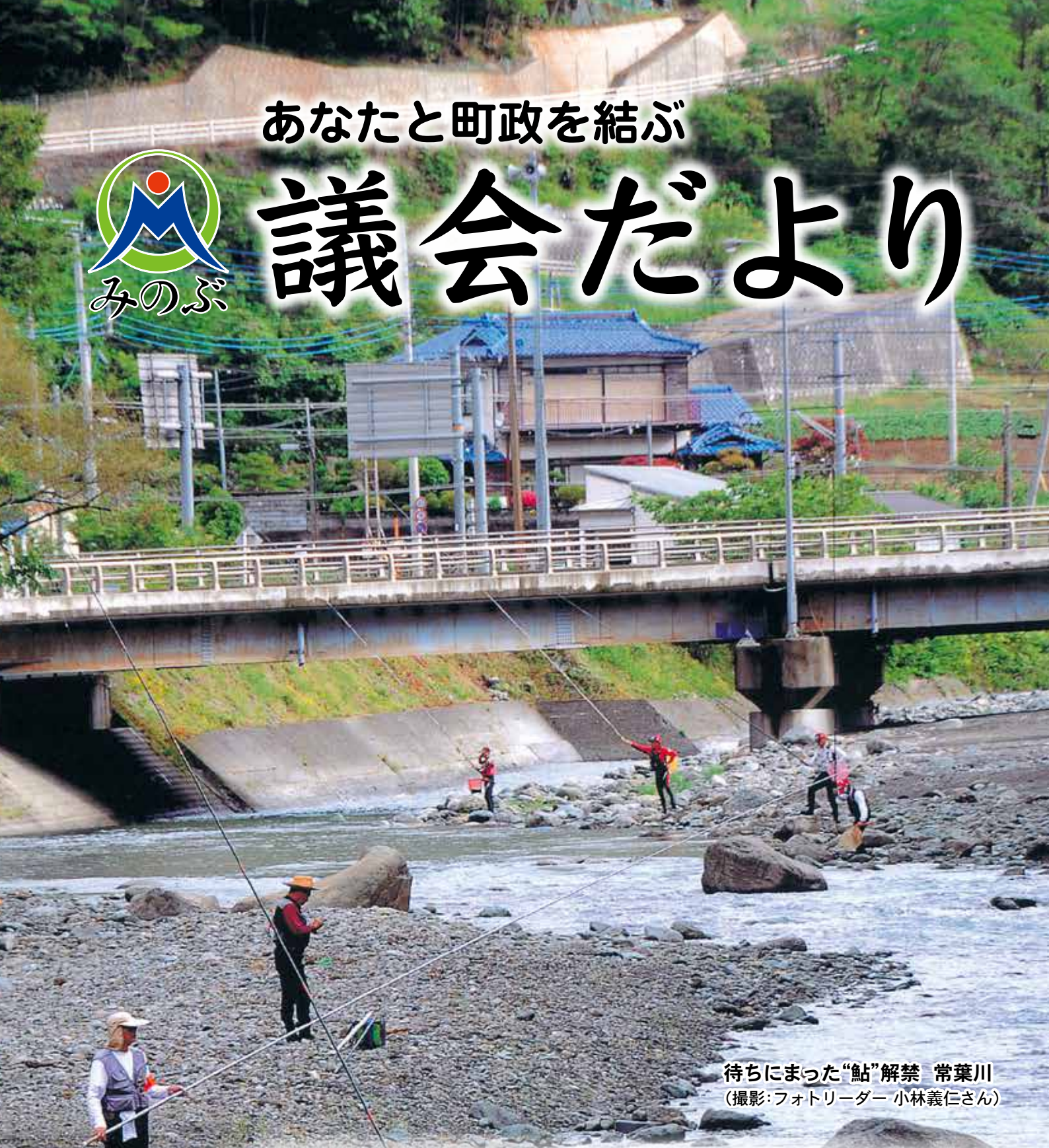
あなたと町政を結ぶ

みのぶ

議会だより



待ちにまった“鮎”解禁　常葉川
（撮影：フォトリーダー 小林義仁さん）

2014
GIKAI DAYORI
MINOBU
No.39

6月定例会

- 町民と議員との懇談会 P.2～4
- 追跡（あの一般質問どうなった！） P.5
- 町長行政報告 P.6
- 質疑応答 P.7
- 討　　論 P.8
- 一般質問 P.9～14
- モニター通信、委嘱式・研修 P.15
- 保育所めぐり（常葉保育所） P.16

■発行：山梨県身延町議会　■編集：議会広報編集委員会　■発行日：平成26年7月25日

地域住民の声を聞く

…地域住民との対話集会…

身延地区

＊とき　平成26年5月17日（土）
　　午後7時30分～午後9時
＊会場　身延町総合文化会館2階会議室
＊参加者　計23名
　（町民9名、議員13名、事務局1名）

懇談会の目的

○…身近な議会に…○

この懇談会は、議員が議会の運営状況や課題の取り組み状況について報告し、町民の皆さまからの意見や要望などを聴き、意思の疎通を図ることを目的に、年2回の予定で実施しています。

質疑応答

Q1 なかとみ現代工芸美術館、湯之奥金山博物館、身延町総合文化会館の運営についての情報開示が不足している。
　また、費用対効果をどのように考えているのか。議会でもしっかり議論をしてほしい。

A1 3地区懇談会での質問・提言・意見をまとめ、議員全員協議会等で協議し、当局へ提出する等の対応を行う。

Q2 学校統合問題、「子どもの減少で統合」という考えでは、いずれ学校はなくなる。学校がなくなると過疎化が進み、学校のないところに人は集まらない。検討し直してほしい。

A2 議会において、町長は「学校はなくさない」という答弁をしている。
　今後、新たな議会として違う意見が出て、手続きを踏み、議決すれば変わることもある。

提言・意見・要望

○学校統合問題は、住民感情を重視した取り組みをしてほしい。

○中部横断自動車道開通に伴い、52号線沿いの「ゆばの里」・「中富の直売所」など、お客の減少が考えられる。
　このことに対して、どのように考えるのか、しっかり議論してほしい。

○「集団的自衛権」の問題、議会としてどのように考えるのか。深刻な問題である。

○電気柵の電源が故障した場合、補助を考えてほしい。

○学校のないところに子どもは来ない。
　教育振興基本計画を策定し、学校統廃合を考えてほしい。

町民と議員との懇談会

下部地区

＊とき　平成26年5月24日（土）
　　午後7時30分～午後9時30分
＊会場　久那土働く婦人の家2階会議室
＊参加者　計64名
　（町民50名、議員13名、事務局1名）

…膝を交えて意見交換…

質疑応答

Q1
「1中3小」は民意に沿っていないと考える。下部地区議員の考えはすでに聞いているが、学校統廃合問題について、身延・中富地区の議員はどのように考えているのか。

A1
＊「1中3小」の議決は尊重する。違う考え方があれば議論して、新たに採決を行えばよい。

＊保護者の同意書が出された時点で、改めて議論する。今後、議会でより良い方向を探っていく。

＊どのような教育を行っていくべきかという話し合いが不足している。

＊審議会答申は「1中2小」だった。議会としては「1中3小」の意見書を出したが、規模だけであり、配置については今後議会で議論していく。

＊「1中3小」には反対であり、地域性をもった考えで進めるべきである。

提言・意見・要望

○「1中3小」の議決は守らなければという議員が多いが、状況は変化している。議会も教委も硬直した考えで進めるのはよくないと思う。

○計画をこのまま進めれば、30年を待たず学校が消えてしまうという危機感がある。
議員は良識ある判断を。

○久那土小は、少人数だがすばらしい学校だと表彰もされている。そのことを、教委や町はどのように考えているのか。

○1中というのなら、多くの人が納得する場所に学校を設けるという発想はないのか。

○「三沢－市之瀬トンネル」は下部地区住民の30年来の悲願である。富士川左岸にも2車線レベルの道がほしいという住民が多いことを理解してほしい。

○廃校になると、過疎率50％を超えるというデータがあるが、古関では人口減少が60％を超えているという。頭の中だけでものをいうのではなく、数字で示してほしい。議員も廃校後の検証をしっかりしてほしい。

町民と議員との懇談会

中富地区

＊とき　平成26年5月31日（土）
　　午後7時30分～午後9時
＊会場　飯富ふれあいセンター
＊参加者　計31名
（町民15名、議員14名、事務局2名）

…活発な意見交換…

質疑応答

Q1 議会費の内容は。

A1 主なものとして、議員定数が2人減の14人となったための報酬等の減額である。予算全体で前年度よりも751万6千円の減額である。

Q2 防災行政無線デジタル化のメリットは。

A2 伝送の高速化により音声のみならず、画像やデータの送受信が可能となり、パソコンや携帯端末に容易に接続できること。

Q3 原地区体育館跡地、利活用の考えは。

A3 町としてはまだ決めていないが、「今後検討していく」としている。

Q4 小中学校統合はどうなっているのか。

A4 28年4月、まず中学校を統合する計画である。現在、委員会において、後期計画の同意・不同意の集計がなされており、いずれ報告を受ける予定。

Q5 人口減についてどのように考えているのか。

A5 宅地分譲など政策室で取り組んでいる。

提言・意見・要望

○子どもの声が聞こえない活性化は、あり得ない。1中3小にして町の活性化ができるのか。

○学校統廃合問題は、町の将来を左右するものである。もっと真剣に論議しなければならないと思う。

○子どもは、ある程度の規模で学習させたい。

○どのような学校にするのか、教育ビジョンがない。

○町の活性化、声は出るが実施されていない。

○身延の学校に魅力がない。もっと子供の意見を聞いてほしい。

○小人数だからできる学校の良さを、もっと生かしてほしい。

追跡 あの一般質問どうなった！

議員の質問に、当局がどのように対応し、どのようになっているのか！

●乗合タクシーの運行拡大を。（H25 年 12 月定例会）　質問者：渡辺文子 議員

問　地域的に利用できないという声を聞いているが、運行拡大はできないか。

答　運行されていない 24 集落を歩き、また、オペレーターや運転手の意見を聞きながら、なるべく早く解消していきたい。

その後　24 集落について、「ワゴン車での擦れ違いはどうか、旋回はできるのか」などの実地調査を行った。現在その結果について、オペレーターや運転手との意見交換を行い、少しでも運行の拡大ができるよう検討している。

●要支援、サービス切り捨て撤回を。（H25 年 12 月定例会）　質問者：渡辺文子 議員

問　ほとんどが訪問や通所サービスになる。要支援の切り捨てをさせないため、町からも声を上げる必要があると思うが。

答　明日、この内容について県の説明があるので、それを受け対応したい。

介護保険制度で比較的介護度の低い「要支援１」「要支援２」と認定された人について、介護保険の給付対象から切り離すことを含め、制度を見直す法案が６月１８日成立した。
急増する介護費用を抑えるためで、ボランティアなどを活用した市町村の事業に移すことを視野に入れている。ただし、市町村間でサービス内容に差が出かねず、「軽度者の切り捨てになる」との批判も強い。

その後　県の説明では、要支援１・２の方が訪問介護や通所介護サービスを受けられなくなるということではなく、ケアマネジメントの結果等を踏まえ、サービスが不可欠な場合は、同じ介護保険制度の中の「地域支援事業」として訪問介護等のサービスを提供するというものである。
今後国から示される詳細情報等を考慮し、必要なサービスを適切に提供できるよう、介護保険事業の運営に努めて行く。

町長行政報告

望月仁司 町長

迫る厳しい財政状況
徹底した節減合理化に努める

●地方交付税について

地方交付税が減額される中、本町においては、合併の特例措置である交付税の合併算定替えが今年度で終了し、27年度からは段階的に減額が始まり、6年後の32年には総額約10億円が減額される。

目の前に迫った厳しい財政状況、町税等の一般財源の積極的な確保策を講ずるとともに、経費全般について徹底した節減合理化に努め、効率的で持続的な財政運営を行っていきたいと考えている。

●平成25年度一般会計・特別会計決算処理

25年度一般会計及び特別会計の決算処理が、5月30日付けで行われ、全会計において黒字決算となり、会計処理が良好に完結した。

●「富士山世界遺産認定書伝達式」について

4月21日に外務省において「富士山世界遺産認定書伝達式」が開催された。

認定書の原本は外務省で保管してあるが、レプリカを山梨・静岡両県及び該当する市町村等がいただいた。

町長室入口横の展示ケースに飾りましたので来庁の折りは、ぜひご覧いただきたい。

富士山世界遺産認定書

●丸滝宮の前団地宅地分譲事業について

24年度から定住促進のため「丸滝宮の前団地宅地分譲事業」の造成工事等を行ってきたが、このほど完成し、19区画、平均面積約100坪の分譲を開始した。

申込状況は2件、また、数件の問い合わせがあるが、多くの方に購入して頂き、一日も早い定住を願っている。

●大雪による、国道52号避難所開設に伴う感謝状受賞等について

献身的な功労に対して、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所長より、各施設に感謝状の贈呈がなされた。

また、山間部の集落では除雪が間に合わず、孤立集落の解消のため、2月20日から22日までの間、長野県野沢温泉村役場より、職員2人が除雪機持参の上、応援に駆けつけてくれました。

このことに対し、5月23日野沢温泉村に出向き、村長に感謝の意を表した。

質疑応答
6月のやり取り

○報告第3号　平成25年度身延町一般会計補正予算（第6号）公債費

渡辺文子議員
　利子が1、659万8千円、この金額は大きいと思うがその理由は。

財政課長
　公債費利子分の償還額の算定に誤りがあり、償還額に不足を生じたために、増額補正をした。

○一般会計の繰越明許費繰越計算書

深澤勝議員
　この事業については25年度にすべて執行を完了するのが道筋だと思うが、繰り越しの理由は。

財政課長
　大雪による除雪や用地買収等に不測の日数を要したため。

繰越事業
・丸滝宮の前の宅地分譲事業
・児童福祉費、子ども・子育て支援電子システム構築業務
・社会福祉費の障害者総合支援法、26年度改正対応のためのシステム改修事業
・農林水産業費の3事業
・林業費、林道三石山線改良事業
・道路橋梁費、道路橋梁維持事業ほか。

○議案第52号平成26年度身延町一般会計補正予算（第2号）民生費、児童福祉総務費中報酬

渡辺文子議員
　子ども・子育て会議委員報酬10人分とあるが、今の時期になぜ計上したのか、その理由は。

子育て支援課長
　子ども・子育て会議委員の報酬である。当初予算での計上漏れである。

○民生費、高齢者福祉費中負担金補助金及び交付金

芦澤健拓議員
　補助金300万円の内容は。

福祉保健課長
　社会福祉法人身延山福祉会が設置する、特別養護老人ホームみのぶ荘および養護老人ホーム功徳会、この2つの施設が老朽化しているために今年度から3カ年計画で施設を再編整備することとなった。この補助金は、今年度分の施設整備に対するものである。

【内容説明】
　特別養護老人ホーム「みのぶ荘」では80人の定員を最終的に30人定員とし、現在50人定員の養護老人ホーム「功徳会」と合築。
　みのぶ荘の定員が80人から30人となり、減った50人分を25人ずつの小規模な特別養護老人ホームとし、現在の「みのぶ荘」から離して地域に分散し整備するという計画である。
　今年度は小規模な特別養護老人ホームを1棟建設する。

芦澤健拓議員
　補助金、介護基盤緊急整備特別対策事業費補助金の300万円であるが、実際の事業は全部でどのくらいかかるか。

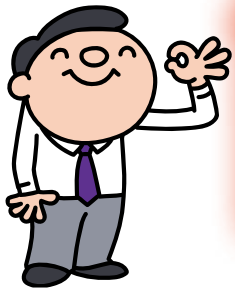
福祉保健課長
　今年度整備をする予定の小規模の特別養護老人ホームについては諸々の費用を含めて5億1千万円ほどの数字を受けている。
　当初予算に1億円の補助金を計上しているので今回の補正の300万円と合わせ、町から補助金として予定しているのは、現在1億300万円となる。
　またこの財源はすべて、国・県からの補助金である。

特別養護老人ホーム「みのぶ荘」（身延町梅平）

○農林水産業費

川口福三議員
　農業振興費の中で県、国の補助率に対する報告があったが、この施設の場所、またこの内容について説明をお願いする。

産業課長
　補助施設の場所は身延町全体で。
　件数は、施設撤去費が16人、27件が対象である。
　修繕、再建については被災者18人で31件分。
　内容はビニールハウス、農機具格納庫、果樹棚、鶏舎等々の被災に対する補助である。



討論

反対

議案第52号
平成26年度身延町一般会計補正予算（第2号）
民生費中・障害福祉費委託料
（賛成多数で可決）

償還払いにするため、町のシステムを変える予算である。重度の障害を持つ人たち、そして子どもたちがお金の心配をせずに医療が受けられる窓口無料制度を続けるべきだと考えるので、この補正予算に反対する。

渡辺文子　議員

請願第2号
憲法解釈の変更による集団的自衛権行使容認に反対する意見書提出を求める請願について
（継続審査）

世界では今、戦争ではなくて平和的・外交的努力で問題を解決することが流れとなっている。

日本は憲法を生かしてアジアと世界の平和に貢献する道こそ日本は進むべきである。

憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認に反対するこの請願は、採択すべきである。

渡辺文子　議員

請願第3号
「医療・介護総合法案」撤回と安心できる介護制度を国に求める意見書に対する請願不採択に対する討論
（賛成多数で可決）

憲法第25条に基づき、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる介護制度を国は自治体と協力して追及すべきである。

医療・介護総合法案撤回と安心できる介護制度を国に求めるこの請願は採択すべきと考える。

渡辺文子　議員

賛成

議案第52号
平成26年度身延町一般会計補正予算（第2号）
民生費中・障害福祉費委託料
（賛成多数で可決）

3月の第一回定例会において議決している。

また、医療費助成システム改修業務については受給者に都度、足を運ぶことのないようにするためのシステム改修であるので賛成する。

野島俊博　議員

請願第2号
憲法解釈の変更による集団的自衛権行使容認に反対する意見書提出を求める請願について
（継続審査）

国会においても憲法解釈の意見の相違、またその解釈の度合いで議論中である。総務産業建設常任委員会でも議員各位それぞれの考えがあり、4人が継続審査賛成、1人が反対ということで継続審査が妥当であると決したので、継続審査にすることに賛成する。

広島法明　議員

請願第3号
「医療・介護総合法案」撤回と安心できる介護制度を国に求める意見書に対する請願不採択に対する討論
（賛成多数で可決）

超高齢化社会を迎える中で、効率的かつ質の高い医療の提供体制に改革、介護予防、健康増進に向けた取り組みの推進、介護保険料の低所得者負担軽減等も組み込まれた法案であるので賛成する。

深澤　勝　議員

ここが聞きたい！ 一般質問

野島　俊博 議員

教育行政

問 「努力目標」教育振興基本計画策定は

答 策定することが望ましいと考えている

問　地域の実情に応じた教育振興基本計画策定が「努力目標」になっているが、どのように考えているか。

教育委員長　本町独自の、他の地方公共団体とは違う実情あるいは課題等があるので、策定することが望ましいと考えている。

　また、この教育振興基本法は、本町の教育における基本的かつ総合的な計画となるので、ＰＴＡや公民館、体育協会、文化協会などの各種団体や地域が連携し「本町の教育理念を高く掲げる」、そういうものでありたいと考えている。

問　平成26年度から30年度の、山梨の教育振興プラン、「未来を拓く山梨人づくり」と題し、山梨の教育振興プランが作成されているが、本町において、県と一体となった施策の推進を、どのように理解し進めていくのか。

教育長　教育の目標は、国や県、町も同じ方向で推進をしなければ大きな成果は望めないわけである。

　年度当初の町の教育方針には国や県の考えをもとに、その時点で取り組むべき重要課題や施策をうたっている。

　峡南地域、そしてわが町の抱える独自の課題もあるので、県とも調整を図った上で、連携を図っていきたいと考えている。

教育を取り巻く社会状況について

問　「少子高齢化の進行」について、これからの教育に求められることは。

教育長　学校教育、生涯学習に大きな影響のある問題と捉えている。

　時代の変化や、その時々の社会情勢、あるいは複雑化する社会の中で、教育は、これに対処することのできる人格、あるいは知識の形成に資するために、今後ますます重要になると考える。

問　「グローバル化の進行」について、これからの教育に求められることは。

教育長　社会性を学び、キャリア教育を進めて世界との関わりや自己の確立に大きく寄与することが求められている。

　一方、学校教育においては、国際人としての基礎を養い、また外国語を学びたいという意欲づけを育成することが重要である。

問　「身延の良さ」を再認識して、これからの教育に求められることは。

教育長　本町は地域への愛着は非常に強い。この地域への愛着があればこそ、公民館活動などを通じ「身延町の良さ」をさらに引き出すのではないかと思う。

　世界文化遺産に富士山が登録され、そして本栖湖、あるいは中部横断道の開通、また町内に３つのインターチェンジ設置という明るいニュースもある。身延の歴史や文化を、自信を持って次世代に伝えていくことが大事であると考える。

問　未来への希望について、これからの教育に求められることは。

教育長　いつの時代も学校教育、社会教育のできることは、規範意識や生きる力を育むことである。

　まちづくりは人づくりが基本であり、これからの社会を「たくましく生き抜く力を身につけてほしい」という思いから教育に力を入れているところである。

その他の質問

①「安全・安心に対する意識の高まり」について、

②「知識基盤社会の到来」について、

③「社会のつながりの希薄化」について、

これからの教育に求められることは。

町の将来展望

問 町の将来に期待できないと考える若者への対応は

答 定住促進に重点を置き、若者との話し合いも検討したい

松浦　　隆 議員

問　新聞報道で30年後の県内市町村の人口数と、若い世代の女性人口の減少率・人口数が掲載され、将来消滅する自治体もあると警告しているが、町長の考えは。

町長　今の水準で大都市への人口流出は重大な結果になると仮定している。今までも定住促進事業を実施してきたが、地理的条件などの要因で人口が減少している。中部横断道の開通で、通勤の利便性や通勤範囲の拡大が期待されることから、新たな定住を促進する宅地分譲など、定住環境の整備を進めていきたい。

問　若い女性人口マイナス75・8パーセントの減少予想に対する考えは。

町長　対策を講じない場合の予想数で、過疎対策と少子高齢化対策を、定住促進の重点に置き、今まで以上に進めていきたい。

問　町長は、提唱する「住んでよし 訪ねてよし おらが身延（まち）」や鎮守の森構想で、魅力ある拠点づくりに積極的に関わり取組む考えか。

町長　その通りである。

問　若い世代から「総合計画に将来展望が見えない、町の将来に期待できない」との声があるが。

町長　私の耳には届いていない。逆に中部横断道が開通し、素晴らしい町になるとの声を聞いた。

問　昨年の6月議会の一般質問で、「学校統廃合問題は定住促進とは対極的な施策ではないか」との問いに「生活環境の整備と教育環境の整備は、町民のための施策で相反する施策ではない」と答弁している。この点が認識の違いではないか。

町長　町民のための施策との考えは変わらない。

問　他町での成功例を参考に、移住希望者の受け入れ環境の整備をし、在住の若者との話合いで考えを聞き、定住促進を進めるべきではないか。

町長　今後検討したい。

問　人口減少に歯止めをかける、町の大胆な意識改革が必要ではないか。町づくりに意欲のある職員を募り、若い職員の考えや、女性の立場からの町づくりを進める、プロジェクトチームを政策室に配置してはどうか。

町長　すべての行政を担うなかで検討したい。

…定住促進事業…
「丸滝宮の前団地宅地分譲事業」19区画造成状況

要望　**若者が希望をもてる町づくりの、積極的な施策を町長に期待する。**

渡辺　文子 議員

学校統合問題

問 後期統合計画を白紙に戻し教育振興計画を

答 白紙にという提案は受け入れられない

問　若年女性の減少率が本町は県下で2番目に高いと報道があったが、これに拍車をかけるのが地域から学校をなくすこと。町の活力、魅力を自ら奪うことはやるべきでない。学校をなくすことより、先にやるべき事があるが。

教育委員長　教育委員会の責務、施策として学校統合をしなければ怠慢のそしりを免れない。

問　学校がなくなると、子どもを持つ若い世代が近くに学校のある地域に移り住み、過疎に拍車がかかるという報道番組があった。旧下部町で久那土小と古関小が統合した時99人いた児童がわずか12年後には41人に激減した。隣の六郷小や鰍沢小と比べて減少率が著しく高い。地域に学校がないと若い人たちが住まなくなるという事実がある。町が若者定住や子育て支援を進め、一方で学校をなくしてしまうのは整合性がない。

町長　中富町長の時、曙小学校の統廃合をしなければ身延町の合併に入れないと言われた。同級生が3、4人の中で授業を受けさせるのは子どものために良くないので、原小と統合してくれたらここ曙地区に残るとも言われた。

同意・不同意の結果は

問　久那土の保護者が不同意を出したと聞いたが。

学校教育課長　保護者会として、後期統合計画に同意か否かを回答してもらった結果、11校のうち同意は小学校5校、中学校1校、不同意小学校1校、中学校2校、結論が出せなかったのが小学校1校、中学校1校である。

問　この結果から計画どおり進まないと思うが。

教育長　教育委員会で審議中なので、今は何ともいえない。

問　複数の保護者会から説明に来てほしいとあったが、誠意を持って答えるべきだ。

教育委員長　保護者の会議にひとつ行くと全部行かなければならず、また、説明に正確性を期するため文書で答えた。

問　後期計画に対する同意、不同意と聞いたが、保護者の話では統合する相手の学校について同意か不同意かと答えたと聞いた。

学校教育課長　最初の保護者会の同意書が、後期統合計画ではなく、どこと統合するかについて保護者会は同意するとなっていたので、同じような回答書が出て来たと思われる。

問　そもそもの前提が崩れた同意、不同意は意味がない。この後期統合計画を白紙に戻すべきだ。

教育委員長　後期統合計画を否定する提案は受け入れられない。

問　地域の実情にあった教育振興計画を公募も含め、多くの住民の力で作るためにも後期統合計画は白紙に戻す必要がある。

教育委員長　町の総合計画に位置づけられ、それに基づいた統合計画である。教育振興計画は今後、全体を網羅した形を作る。

川口　福三 議員

町づくり構想

問 中部横断自動車道開通、町づくり構想は

答 ベッドタウン化の施策を進めていきたい

問 中部横断道開通に向けての町づくり構想は。

町長 丸滝の宅地分譲をはじめ、町有地等を利用した分譲計画や、町内観光施設へ、多くの皆さんが訪れてくれるよう考えて行きたい。

問 町内3か所のインターが決まったが、町の拠点としての構想を聞く。

町長 それぞれの各種関係委員にお願いする中で検討する。

問 峡南地方の人口減は、生活基盤整備が遅れている旧下部地区の人口減が著しいが、市之瀬・三沢間の道路問題等に対する町長の考えは。

町長 町長就任以来、県へ要望している。

問 下田原から峡南衛生組合までの測量調査費が計上されたが、国道52号線の迂回路として、鴨狩までの道路整備の考えは。

町長 3年後に、中部横断道が開通した後、考えていく。

問 富士山が世界遺産に登録された。観光に対する受け入れ態勢を聞く。

観光課長 駐車場、トイレ、観光案内所が必要となる。4月に本栖湖に観光案内所を開設した。

問 姉妹都市の鴨川市は、1市1町の合併で、80億の特例債、その内60億を中学校統合に投じた。

本町は、約102億の限度額の内、下山小へ13億のほか9事業に使い、起債可能額が73億あるが、今後の活用計画は。

財政課長 事業実施については、国・県の補助金や交付金を充当し、町の負担分に特例債の充当を検討していく。

本栖湖畔観光案内所開所式

次期学校統合計画について

問 不同意が多い場合、今後、どのような計画となるのか。

教育長 6月2日に臨時会を開催したが、結論に至っていない。

防災対策について

問 2月の大豪雪、除雪指示と今後の対応への考えを聞く。

町長 情報・連絡が取れない状況であった。課題点を挙げ整理し、県に提出した。

秋には対策案が整理され各市町村に公表される。

深澤　勝 議員

認知症予防

問 認知症予防は重要な課題、早期検討を

答 軽度認知障害の検査と介護予防を連動

2月の豪雪被害状況

問 豪雪による各種被害状況と財政措置は。

財政課長 道路等の除雪費8、523万2千円、農業用施設で58施設、約1億400万円、公共施設等の修繕費1、621万3千円となる。

財政措置は国土交通省の補助金2、950万円、特別交付税算定数値に5、100万円を算入、農業施設で6、897万6千円の補助金等が見込まれる。

災害用備蓄品(非常食飲料水等)保管方法を

問 2月の豪雪により、国道52号線の車の停滞は約3日間、大変な状況から集会施設等に非難を呼びかけ、周辺住民がそれぞれ自宅の米を持ち寄り、食料の確保と提供に奔走、自宅の米も切迫した状況から、町が管理する非常用物品を集会施設等に分散保管の考えは。

町長 2月の豪雪を教訓に、各地域の皆様が使い勝手の良い施設に備蓄品の分散化を図っていく。

6月に開催された認知症予防講演会（すこやかセンター）

防災力(消防団)の強化

問 消防団は地域防災の要である。昨年末に消防団支援法が施行され、消防団の抜本的な強化を目指して、自治体職員の積極的な入団促進、及び消防団の処遇改善で退職報償金、報酬、出勤手当等の引上げが求められている。

本町消防団の一層の充実に向け、国の要請に対応すべきでは。

町長 職員みずから地域の中核として積極的に活動するよう推進している。

なお、処遇改善については、必要に応じて適切に処理していく。

認知症予防に、頭の健康チェックを

問 高齢化比率が非常に高い本町では、認知症予防は重要な課題であり、安心して暮らせる町づくりのため、頭の健康チェック（軽度認知障害スクリーニングテスト）の導入はどうか。

福祉保健課長 早期診断、早期対応が重要。提案の趣旨に沿って軽度認知障害の検査と介護予防事業を連動して取り組む。

●その他の質問

問 身延町地域防災計画に雪害対策を。

問 有害鳥獣の捕獲と狩猟鳥獣の食用（ジビエ）の加工施設を。

【軽度認知障害とは】
正常な脳と認知症の中間の状態を言う。スクリーニングテスト（判別検査）により、自分の脳の機能の状態を知ることができる。

田中　一泰 議員

町づくり行政

問 総合計画で目指す町づくりは

答 地域に魅力を感じる町を目指す

問 地域協働でつくる身延のまちづくりの商業振興の進捗状況は。

町長 地域と連携する中で単に観光客を呼ぶだけでなく住んでいる人が地域に魅力を感じ、町外に向けてその魅力を発信していけるような町を目指して取り組んでいきたい。

問 中部横断道の開通に関して具体的に何をしているのか。

町長 本栖湖に観光案内所を開設した。町民総ガイド運動を町内に浸透させ、観光客を明るい心で向かい入れるよう対応したい。

問 観光地の整備は重要な政策だが、身延門内地域の交通状況の改善について計画があるか。

観光課長 道路整備については、景観整備事業で電線の地中化、町道関係では用地確保等可能であるならば待避所的に随時拡幅するなどの対応をとっていきたい。

待たれる電線地中化「身延山門前町」

問 下部温泉の環境整備、魅力づくりについての考えは。

観光課長 地域の持続的な発展に向け観光地づくりと町づくりを一体的に行う観光の町づくりという考えのもとに活動を進めて行く。

　上下水道の整備、街灯のLED化事業が行われた。地元の皆さんの「知恵と力」に町も力を合わせていきたい。

問 身延町内の観光の連携で、現在、取り組んでいることは。

観光課長 町内の各観光団体で組織する身延観光連盟として各観光関係団体へ情報提供をしている。

　民間活力を活用する形で観光事業の展開を期待している。

問 生涯学習の目的と内容及び現状について。

教育長 人と文化を育む町づくりとして、生涯学習の推進が位置付けられている町づくりには、人づくりが必要である。

　こうした目的を進めるため、26年度より「自主企画講座」の開催を目指しており、自ら進める楽しさに加え、性別や年齢を超えた交流、協働の町づくりに繋がっていくものと考えている。

　教育委員会としても支援していく。

問 小中学校におけるいじめ問題について、教育委員会としての対応と考え方について。

教育長 管内で11校、合計で10件程度を把握している。先生方の努力によりほぼ解消している。

　いじめ防止基本方針を策定し、未然防止に努めて行くとともに、教育委員会も積極的に関わっていく。

全国町村議会議長・副議長研修会

・研 修 日　5月27日～26日
・場　　所　東京「メルパルクホール」
・研修内容
　・これからの町村議会のあり方
　・日本の政治経済の現状と今後の行方
　他、基調講演等

山梨県町村議会議長会から【優良町村議会】として、身延町議会が表彰されました。

町民の皆様に支えられ、ともに歩み、住民福祉の向上にますます努力してまいります。

議会広報モニター・フォトリーダー 委嘱状交付式

平成26年度・平成27年度の任期で、「読みやすく、親しみのある議会広報」づくりにご協力をいただく皆様です。2年間よろしくお願いいたします。

モニター通信

（議会だよりNo.38の意見・感想等）

議会広報モニターの皆様のご意見・ご感想等を要約したものです。
貴重なご意見等を参考に、町民の皆様が読みやすい議会だよりを目指します。

◆表紙について
子どもたちが安全にと願う、とても良い写真だと思う。

◆当初予算について
予算を家計簿に例えているが、６００万円の根拠が不明。歳入合計を世帯数で割った金額を家計収入にした方が良い。

◆質疑応答
質問した項目に答えて終わっている。町民は提案された議案が本当に必要なのかを知りたい。この後の追及があれば掲載してほしい。

◆鴨川市表敬訪問
前後のページとは何の関連もないように思う。意図不明。

◆討　論
反対する意見は賛同できないが、どのポイントについて反対しているのかは見える。

◆町長施政方針・教育委員長教育方針
・町長施政方針、簡単明瞭、もっと中身がほしい。
・高齢化の進むわが町である。認知症対策も兼ねて生涯学習関係の充実に期待する。

◆保育所めぐり
とても可愛い子どもたち。健やかに育ってほしいと願う。子どもが多くなることを願う。

◆委員会レポート
・写真の内容は、金山博物館については１枚で大きい方が見やすいと思う。
・税等の滞納者に対しての取り組みはどのような努力をしているのか。督促状を出すだけが仕事ではない。解決に向けて住民に寄り添った行政をしてほしい。

◆モニター通信・議会日誌・臨時会・組合議会
モニターの感想、意見を読み、改めて該当号の議会だよりを見直す機会になっている。

◆一般質問
町の将来像の質問に対して、合併特例債が31年度まで延長されたことに伴い、計画期間の延長という回答。問題を先送りしているようで具体的なビジョンが見えてこない。職員に、町の発展に対する積極性が欠けているように思える。

◆町政全般の意見・要望
・学校統廃合問題は、長期的なビジョンで計画を立てなければならない。将来を見据えた場合、中学校の適地は下山しか考えられない。中高一貫は進路を限定され、子どもの夢をつむことになってしまう。
・一寸一言、わが町は観光に依存する部分が重い。一方で行政側の対応が遅れているのも目につく。例えば、ヤマメの里の施設は、再開できなければ看板を撤去すべき。聞かれた時の対応に困る。他の施設・看板等も点検する必要があると思う。

保育所めぐり

見守られて

常葉保育所

主任保育士　佐野百合子

○神社に見守られて

「神様、おはようございます。今日も一日お願いします。」「神様、今日も一日ありがとうございました。」

常葉保育所の隣にある諏訪神社で朝夕、お家の方と一緒に手を合わせる子ども達の姿があります。欅・杉などの大木に囲まれ、トトロが住んでいそうなこの神社に見守られながら、常葉保育所のお友達は健やかに育っています。

○保育、三本の柱

常葉保育所は、下部小中学校、役場下部支所、下部地区公民館がある五条が丘にあり、未満児3名、年少児3名、年中児4名、年長児5名の計15名の小さな保育所です。丈夫な身体・豊かな心・頑張る力を保育の三本柱に揚げ保育を行っています。

●「丈夫な体」

体育教室、サッカー教室、リトミック教室そして、手づくりにこだわった給食を行っています。

●「豊かな心」

集団生活を通して子どもたちが互いの気持ちを分かり合えるようにしています。

●「頑張る力」

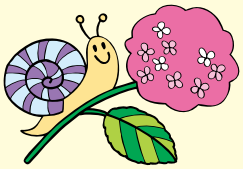
英語教室、お絵かきなどを頑張り、その成果を運動会、デイサービス訪問、お遊戯会で発表しています。

また、地域の皆さまからは、さつまいも堀り、祖父母のふれあい会、絵本の読み聞かせ会などで、子ども達を温かく見守っていただいています。

「笑顔が絶えない保育所」を目指して

これからも、子どもの『育ちたい』という思いと、大人の『育てたい』という思いを大事にしながら、笑顔が絶えない保育所にしていきたいと思います。

皆さん、常葉保育所に遊びにきてください。



“しっかり　おててつないでね”

“笑顔でパチリ　たのしい遠足“

〒409-3392 山梨県南巨摩郡身延町切石 350　TEL 0556-42-2111(代表)　◇発行責任者：議長　河井　淳
URL:http//www.town.minobu.lg.jp/　FAX 0556-42-2127